

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） こども教育学部こども教育学科

【設置の趣旨・目的等】

1. カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから適切に改めること。（改善事項） 2

【教育課程等】

2. ディプロマ・ポリシー（4）に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げており、これに対応する教育課程として専門教育科目において「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」という科目群を設けている。一方、必修科目は演習科目と講義科目がそれぞれ1科目設定されており、当該科目群は「適切な理解」までは対応していると見受けられるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を身につける授業科目は選択科目であることに加え、履修モデルは特別支援教育教員の免許取得を前提とする学生のみが示されているのみであることから、全ての学生に対してディプロマ・ポリシー(4)の「保育を実践し、育ちを支える力」を養成する教育課程となっているか不明確であることから、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） 6

【入学者選抜】

3. アドミッション・ポリシー（1）において「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」を掲げているが、大学入学者共通テスト利用選抜においては「書類審査」がどのような書類によって判断するか不明確であり、仮に高等学校等の調査書のみであった場合は、アドミッション・ポリシー（1）に掲げる意思や態度を適切に判断できるかについて疑義がある。大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー（1）の確認方法について具体的に説明すること。（是正事項）

11

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

4. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして申請段階における業者アンケート調査に基づいて「受験したいと思う」と回答した者のうち、本学に「入学したい」と回答した者の数を示しているが、回答者の高校卒業後の希望進路や興味のある学問についてクロス集計がなされておらず、回答者の入学見込みについて適切に分析したものとは判断できない。また、当該調査の対象者を踏まえると、複数の大学等を併願することが一般的に想定されるが、調査票の選択肢は併願先を踏まえた入学意向を確認できるものとなっておらず、定員充足の根拠となる客観的なデータが適切に示されているとは判断できない。回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえて適切にクロス集計し、分析されたデータを改めて示すなど、定員充足の根拠となる客観的なデータを基に改めて説明す

るとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項) 19

(改善事項) こども教育学部こども教育学科

1. カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから適切に改めること。

(対応)

ご指摘のとおり、カリキュラム・ポリシーにおいて、学修成果の評価の在り方等についての具体的記述を明記していなかった為、以下のとおり記述を行う。

本学部ではディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラム・ポリシーを踏まえて各授業科目により教育課程を編成しているが、各授業科目の到達目標はシラバスにある評価方法（筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への参加態度等）により、公正かつ的確に評価を実施する。その達成すべき水準としての評語は、秀、優、良、可を合格として、不可を不合格とする。評語に係る成績は下表の通りである。なお、学生が能動的に学修に取り組み、必要な資質・能力を身に付けるようにカリキュラムツリーとカリキュラムマップを配付するとともに、各授業科目の到達目標、授業概要と内容、ディプロマ・ポリシーとの関係、評価方法等を記したシラバスを必要に応じて確認できるようにしておく。

秀	90 点以上 100 点
優	80 点以上 90 点未満
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

表 1. 評語に係る成績

成績評価は履修状況一覧で開示すると同時に、GPA を活用して学年ごとの学修成果の全体的把握ができるようにする。また、履修カルテにより幼稚園教諭免許及び特別支援学校教諭免許取得に向けて必要な単位取得を確認できるようにするが、その際、学習の状況と授業担当のコメントを付語して振り返りに役立てるようにする。さらに、「必要な資質・能力の自己評価」を活用して各学年の履修終了時に学生が自己評価を行う体制とする。自己評価と成績の乖離が大きい学生及び自己評価の低い学生に対しては、個別指導を行うことで、ディプロマ・ポリシーを達成し、幼児教育・保育者を養成することとする。「必要な資質・能力の自己評価」による評価は、1 年次から 3 年次については、各年度末に実施する。4 年次は、前期の学期末に実施する。このようにして各科目と全体的な学習状況、自己評価をあわせて全体的な学修支援を進めることにする。

なお、各科目の GPA については 2.00～3.00 を目安として科目間の評価値の是正に努めるようにする。このことにより学生が自分自身の得手不得手などの学力傾向や学修と評価との関係を把握できるようにして、幼児教育者・保育者としての資質・能力の向上を図ることにする。また、授業改善アンケートを実施して各授業科目の実施方法やわかりやすさ、内容理解、授業への満足度や学修意欲について学生の意見や要望等を把握することにより、教員の授業改善及びこども教育学部の教育活動全般の質の向上を図ることにする。

※GPA の算出

$$\frac{(\text{秀 } 4 \times \text{修得単位}) + (\text{優 } 3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良 } 2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可 } 1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

一方、学部・学科の教育課程の総合的評価として、学位授与数、幼稚園教諭1種免許状取得率、保育士資格取得率、特別支援学校教諭1種免許状取得率、就職率、卒業時アンケートにより測定して、学部教育の向上を図る資料にする。

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載したページ (13-15 ページ)

新	旧														
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略) (4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>エ 学修成果の評価の在り方</p> <p><u>ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、下表の項目で学修成果を計測し、学部教育と学生の学修の改善を図る。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">在学中</th> <th style="text-align: center;">卒業時・卒業後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・成績評価</td> <td>・学位授与数</td> </tr> <tr> <td>・GPA</td> <td>・幼稚園教諭一種免許状 取得率</td> </tr> <tr> <td>・修得単位数</td> <td>・保育士資格取得率</td> </tr> <tr> <td>・履修カルテ</td> <td>・特別支援学校教諭免許 状取得率</td> </tr> <tr> <td>・授業改善アンケート</td> <td>・就職率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・卒業時アンケート</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表1 学修成果の計測</p> <p><u>本学部ではディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラム・ポリシーを踏まえて各授業科目により教育課程を編成しているが、各授業科目の到達目標はシラバスにある評価方法(筆記試験、レポート、講義・演習・実習等への参加態度等)により、公正かつ的確に評価を実施する。その達成すべき水準としての評語は、秀、優、良、可を合格として、不可を不合格とする。評語に係る成績</u></p>	在学中	卒業時・卒業後	・成績評価	・学位授与数	・GPA	・幼稚園教諭一種免許状 取得率	・修得単位数	・保育士資格取得率	・履修カルテ	・特別支援学校教諭免許 状取得率	・授業改善アンケート	・就職率		・卒業時アンケート	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略) (4) 教育の理念と学修成果の検証 (略) (新設)</p>
在学中	卒業時・卒業後														
・成績評価	・学位授与数														
・GPA	・幼稚園教諭一種免許状 取得率														
・修得単位数	・保育士資格取得率														
・履修カルテ	・特別支援学校教諭免許 状取得率														
・授業改善アンケート	・就職率														
	・卒業時アンケート														

は下表の通りである。なお、学生が能動的に学修に取り組み、必要な資質・能力を身に付けるようにカリキュラムツリーとカリキュラムマップを配付するとともに、各授業科目の到達目標、授業概要と内容、ディプロマ・ポリシーとの関係、評価方法等を記したシラバスを必要に応じて確認できるようにしておく。

秀	90 点以上 100 点
優	80 点以上 90 点未満
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

表 2. 評語に係る成績

成績評価は履修状況一覧で開示すると同時に、GPA を活用して学年ごとの学修成果の全体的把握ができるようにする。また、履修カルテにより幼稚園教諭免許及び特別支援学校教諭免許取得に向けて必要な単位取得を確認できるようにするが、その際、学習の状況と授業担当のコメントを付語して振り返りに役立てるようにする。さらに、「必要な資質・能力の自己評価」を活用して各学年の履修終了時に学生が自己評価を行う体制とする。自己評価と成績の乖離が大きい学生及び自己評価の低い学生に対しては、個別指導を行うことで、ディプロマ・ポリシーを達成し、幼児教育・保育者を養成することとする。「必要な資質・能力の自己評価」による評価は、1 年次から 3 年次については、各年度末に実施する。4 年次は、前期の学期末に実施する。このようにして各科目と全体的な学習状況、自己評価をあわせて全体的な学修支援を進めることにする。

なお、各科目の GPA については 2.00～3.00 を目安として科目間の評価値の是正に努めるようにする。このことにより学生が自分自身の得手不得手などの学力傾向や学修と評価との関係を把握できるようにして、幼児教育者・保育者としての資質・能力の向上を図ることにする。また、授業改善アンケートを実施して各授業科目

の実施方法やわかりやすさ、内容理解、授業への満足度や学修意欲について学生の意見や要望等を把握することにより、教員の授業改善及びこども教育学部の教育活動全般の質の向上を図ることとする。

※GPAの算出

$$\frac{(\text{秀 } 4 \times \text{修得単位}) + (\text{優 } 3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良 } 2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可 } 1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

一方、学部・学科の教育課程の総合的評価として、学位授与数、幼稚園教諭一種免許状取得率、保育士資格取得率、特別支援学校教諭一種免許状取得率、就職率、卒業時アンケートにより測定して、学部教育の向上を図ることとする。

【資料 1-8 履修カルテ（評価・コメント用紙）】

【資料 1-9 履修カルテ（幼稚園教諭一種免許状）】

【資料 1-10 履修カルテ（特別支援学校教諭一種免許状）】

【資料 1-11 履修カルテ（自己評価）】

【資料 1-12 授業改善アンケート質問項目】

オ 入学者の受け入れ方針
(略)

エ 入学者の受け入れ方針
(略)

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

2. ディプロマ・ポリシー(4)に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げており、これに対応する教育課程として専門教育科目において「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」という科目群を設けている。一方、必修科目は演習科目と講義科目がそれぞれ1科目設定されており、当該科目群は「適切な理解」までは対応していると見受けられるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を身につける授業科目は選択科目であることに加え、履修モデルは特別支援教育教員の免許取得を前提とする学生のみが示されているのみであることから、全ての学生に対してディプロマ・ポリシー(4)の「保育を実践し、育ちを支える力」を養成する教育課程となっているか不明確であることから、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー(4)に「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を掲げていることについて、必修科目と選択科目のバランスから「適切な理解」は図れるものの、「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成するには至らないのではないかと指摘をいただいた。新設を申請しているこども教育学部では幼児教育、保育、特別支援教育の三つを柱に、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状を取得することを基本に履修モデルを作成していたところだが、全ての学生がディプロマ・ポリシー(4)を確実に達成できる教育課程編成になるように卒業必修科目、科目配置等を下記①②のように見直して是正事項に対応したいと考える。

① 「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成する卒業必修科目

科目群「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」では、「特別支援教育概論」「障害児教育総論」の2科目のみを卒業必修科目として教育課程を編成していた。しかし、「保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養成するには、例えば「特別支援学校教諭一種免許状」を取得できない場合などには学修が不足することが考えられる。そこで、卒業必修科目を増やすとともに系統的に配置することにした。具体的には、幼児教育、保育の現場で障害のある子どもの理解と関わり軸になる科目として「知的障害児の心理・生理・病理」「知的障害児教育論」及び、発達障害児の幼児教育、保育について扱う「療育論」を卒業必修科目にする。このように卒業必修科目を初年度から順次配置するとともに、「障害児教育課程論」、「特別支援教育コーディネーター論」などの選択科目を配置することで「特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力」を全ての学生に養う教育課程にする。

② 「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」を計画的に学修する科目配置

これまでの教育課程では、「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」についての学修が2年後期から後に集中していた。新設を申請しているこども教育学部は幼児教育、保育、特別支援教育の三つを柱にしていることを踏まえれば、特別支援教育に関する学修を計画的に進めて学びを深めることが必要である。そこで、卒業必修科目を増やすとともに、科目群「特別な支援を必要とするこどもの理解と援助」の各科目を各期に2～3科目程度ずつ履修するように教育課程を整理した。このことで、幼児教育、保育に並んで特別支援教育への知見を漸次高め、全ての学生がDP4を達成する力をつけるようにする。

(新旧対照表)「設置の趣旨等を記載した書類」(28 ページ)

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>オ カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの相関 (略)</p> <p><u>特別な支援を必要とする子どもへの適切な理解に基づいた保育を实践する DP4 を達成するために、まず、幼児期の特别支援教育及び障害児保育の基本の理解を図る「特别支援教育概論(障害児保育を含む)」と「障害児教育総論」の二つを卒業必修科目として学修する。次に、知的障害児、肢体不自由児、病弱児それぞれの「心理・生理・病理」、「教育論」で学びを深めるが、このうち幼児教育、保育の現場で出会う障害のある子どもとの適切な関わりの軸となるように「知的障害児の心理・生理・病理」及び「知的障害児教育論」を卒業必修科目として学修する。そして、知的障害については「知的障害時の言語指導」でさらに学びを深められるようにする。また、発達障害の行動特性を踏まえた具体的な教育支援と連携について取り扱う「療育論」を卒業必修科目とする。加えて、保育の現場で组织的・計画的な支援を進める「特别支援教育コーディネーター論」や保育指導演案、学習指導演案作成等に関して「障害児教育課程論」で学びを深められるようにする。このような卒業必修科目を各学年各期におくとともに、選択科目も含めて特别支援教育に関する科目を各期に3科目程度ずつ履修する教育課程とすることで、特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する科目が系統的に配置されたカリキュラム(CP4)として、幼児教育、保育に並んで特别支援教育への知見を漸次高め、全ての学生がDP4を達成する力をつけるようにする。</u></p> <p>以上のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は次の図のように示すことができる。</p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>オ カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの相関 (略)</p> <p>特別な教育支援を行う力を身に付ける DP4 を達成するために、CP4に沿って、子どもの障害の状況の理解について体系的に学ぶことができるように科目を配置して学修を進める。</p> <p>以上のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は次の図のように示すことができる。</p>

(新旧対照表)「履修モデル 事例①」

新

		取得できる学位及び資格: 学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種+保育士																
教育課程	履修単位数	1年生				2年生				3年生				4年生				計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養教育課程	卒業必修	基礎セミナー	1	キャリアデザイン	1								キャリアトレーニング	1			8	
		日本国憲法	2	日本語表現 I	1													
	保健体育	1																
	体育実技 I	1																
2単位以上卒業必修		女性と社会心理学	2	子どもと環境音楽	1	2										8		
2単位以上卒業必修		英語 I A	1	英語 II A	1											2		
情報/ICT	2単位以上卒業必修	情報処理 I	1	情報処理 II	1											2		
専門教育課程	教育・保育の探求	卒業必修 17単位	教育原理	2	保育・教育課程論	2	保育者論	2					保育ICT演習	1			20	
		保育原理	2	教育心理学	2													
	基礎演習 I	1	基礎演習 II	1	保育・幼児教育研究法 I	1	保育・幼児教育研究法 II	1	保育・幼児教育研究 I	1	保育・幼児教育研究 II	1	保育・幼児教育研究 III	1	卒業研究・卒業論文	1		
	保育内容総論	1				幼児理解	1			教育相談	2				保育・教職実践演習	2		
	保育内容—言葉	1	保育内容—環境	1	保育内容—音楽表現	1	保育内容—人間関係	1			教育方法論 I	2						
	保育内容—健康	1	保育内容—造形表現	1	保育内容—造形表現	1			教育方法論 II	1								
	健康の指導法	2	環境の指導法	2	表現(音楽)の指導法	1	人間関係の指導法	2	複合領域の指導法 I	1	複合領域の指導法 II	1						
	言葉の指導法	2	環境の指導法	2	表現(造形)の指導法	1			複合領域の指導法 II	1								
	音楽基礎	1	器楽 I	1	器楽 II	1	器楽 III	1	器楽 IV	1								
	器楽 I	1	器楽 II	1	器楽 III	1	器楽 IV	1										
2単位以上卒業必修		子どもの保健	2	乳児保育 I	2	乳児保育 II	1	子どもの食と栄養	2	食育論	2							
2単位以上卒業必修				乳児保育 II	1	子どもの健康と安全	1											
子育て支援	卒業必修 2単位	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭福祉	2			子ども家庭支援論	2	子育て支援	1					7		
教育・保育の連携・協働	卒業必修 2単位	社会福祉	2			社会的養護 I	2	社会的養護 II	1	保育における連携・接続	2	保育ソーシャルワーク実践演習	1	保育マネジメント論	2	12		
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助	卒業必修 10単位	特別支援教育概論(障害児保育を主)	2	知的障害児教育論	2	知的障害児の言語指導	2	療育論	2	療育論演習	1							
		障害児教育総論	2	病弱児教育論	2	肢体不自由児教育論	2	重症/発達障害児教育総論	2	特別支援教育コーディネーター論	2							
				知的障害児の心理・生理・病理	2	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	障害児教育課程論	2	聴覚障害児教育総論	2							
				特別支援教育コーディネーター論	2			特別支援教育コーディネーター論	2									
必修		22	12	9	8	7	3	2	4	67								
幼免+保育士必修		0	0	0	0	0	0	0	0	0								
幼免必修		0	0	0	2	0	0	4	0	6								
保育士必修		0	6	4	6	8	4	0	0	28								
特支必修		0	2	6	4	4	6	0	3	25								
選択		4	1	5	2	1	7	5	0	25								
合計		26	21	24	22	20	20	11	4	151								

旧

		取得できる学位及び資格: 学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種+保育士																
教育課程	履修単位数	1年生				2年生				3年生				4年生				計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養教育課程	卒業必修	基礎セミナー	1	キャリアデザイン	1								キャリアトレーニング	1			8	
		日本国憲法	2	日本語表現 I	1													
	保健体育	1																
	体育実技 I	1																
2単位以上卒業必修		熊本学心理学	2	子どもと環境音楽	1	2										9		
2単位以上卒業必修		英語 I A	1	英語 II A	1											2		
情報/ICT	2単位以上卒業必修	情報処理 I	1	情報処理 II	1											2		
専門教育課程	教育・保育の探求	卒業必修 17単位	教育原理	2	保育・教育課程論	2	保育者論	2					保育ICT演習	1			20	
		保育原理	2	教育心理学	2													
	基礎演習 I	1	基礎演習 II	1	保育・幼児教育研究法 I	1	保育・幼児教育研究法 II	1	保育・幼児教育研究 I	1	保育・幼児教育研究 II	1	保育・幼児教育研究 III	1	卒業研究・卒業論文	1		
	保育内容総論	1				幼児理解	1			教育相談	2				保育・教職実践演習	2		
	保育内容—言葉	1	保育内容—環境	1	保育内容—音楽表現	1	保育内容—人間関係	1			教育方法論 I	2						
	保育内容—健康	1	保育内容—造形表現	1	保育内容—造形表現	1			教育方法論 II	1								
	健康の指導法	2	環境の指導法	2	表現(音楽)の指導法	1	人間関係の指導法	2	複合領域の指導法 I	1	複合領域の指導法 II	1						
	言葉の指導法	2	環境の指導法	2	表現(造形)の指導法	1			複合領域の指導法 II	1								
	音楽基礎	1	器楽 I	1	器楽 II	1	器楽 III	1	器楽 IV	1								
	器楽 I	1	器楽 II	1	器楽 III	1	器楽 IV	1										
2単位以上卒業必修		子どもの保健	2	乳児保育 I	2	乳児保育 II	1	子どもの食と栄養	2	食育論	2							
2単位以上卒業必修				乳児保育 II	1	子どもの健康と安全	1											
子育て支援	卒業必修 2単位	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭福祉	2			子ども家庭支援論	2	子育て支援	1					7		
教育・保育の連携・協働	卒業必修 2単位	社会福祉	2			社会的養護 I	2	社会的養護 II	1	保育における連携・接続	2	保育ソーシャルワーク実践演習	1	保育マネジメント論	2	12		
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助	卒業必修 4単位	特別支援教育概論(障害児保育を主)	2	知的障害児教育論	2	知的障害児の心理・生理・病理	2	療育論	2	療育論演習	1							
		障害児教育総論	2	病弱児教育論	2	肢体不自由児教育論	2	重症/発達障害児教育総論	2	特別支援教育コーディネーター論	2							
				知的障害児の心理・生理・病理	2	肢体不自由児の心理・生理・病理	2	障害児教育課程論	2	聴覚障害児教育総論	2							
				特別支援教育コーディネーター論	2			特別支援教育コーディネーター論	2									
必修		20	12	9	8	5	3	2	4	63								
幼免+保育士必修		0	0	0	0	0	0	0	0	0								
幼免必修		0	0	0	3	0	0	4	0	7								
保育士必修		0	6	4	5	7	4	0	0	26								
特支必修		0	2	6	4	4	6	0	3	27								
選択		5	1	5	2	3	7	5	0	28								
合計		25	19	20	25	23	18	15	4	152								

(新旧対照表)「履修モデル 事例② (編入学)」

新															
幼・保・特支免を取る場合【履修モデル】 事例②(編入学) 取得できる学位及び資格:学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種															
パターン1:下級生と一緒に特別支援の授業を受ける															
		1年生		2年生		3年生		4年生		計					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
教養教育課程	教養基礎	卒業必修							キャリアトレーニング	1			1		
		2単位以上卒業必修							心理学	2				11	
		2単位以上卒業必修							食の健康科学	2					
		2単位以上卒業必修							子どもと環境	1					0
		2単位以上卒業必修													0
専門教育課程	教育・保育の探求	卒業必修 17単位												6	
		卒業必修 22単位													23
	子育て支援	卒業必修2単位													0
		卒業必修4単位													32
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助	卒業必修4単位												1	
	必修													25	
	幼免+保育士必修													0	
	幼免必修													0	
	保育士必修													0	
	特支必修													23	
選択													30		
合計													78		
														46	
														32	

旧															
幼・保・特支免を取る場合【履修モデル】 事例②(編入学) 取得できる学位及び資格:学士(教育学)+幼稚園教諭一種+特別支援学校教諭一種															
パターン1:下級生と一緒に特別支援の授業を受ける															
		1年生		2年生		3年生		4年生		計					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
教養教育課程	教養基礎	卒業必修							キャリアトレーニング	1			1		
		2単位以上卒業必修							心理学	2				11	
		2単位以上卒業必修							食の健康科学	2					
		2単位以上卒業必修							子どもと環境	1					0
		2単位以上卒業必修													0
専門教育課程	教育・保育の探求	卒業必修 17単位												6	
		卒業必修 22単位													23
	子育て支援	卒業必修2単位													0
		卒業必修4単位													32
	特別な支援を必要とするこどもの理解と援助	卒業必修4単位												1	
	必修													19	
	幼免+保育士必修													0	
	幼免必修													0	
	保育士必修													0	
	特支必修													27	
選択													32		
合計													78		
														27	
														19	
														20	

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

3. アドミッション・ポリシー(1)において「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」を掲げているが、大学入学者共通テスト利用選抜においては「書類審査」がどのような書類によって判断するか不明確であり、仮に高等学校等の調査書のみであった場合は、アドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断できるかについて疑義がある。大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー(1)の確認方法について具体的に説明すること。

(対応)

入学者選抜においては能力・意欲・適性等の判定にあたり、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する三つの要素を適切に把握するようにと定められている。新設学部においても、入学後の教育との関連を十分に踏まえ、うたえで意思や態度を適切に判断できる確認方法を実施するものとしている。

新設学部のアドミッション・ポリシー(1)において、求める学生像として、「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」と抽象的な表記をしている。しかし、提出した文書中には、意思や態度をどのような方法によって適切に判断し、評価・判定するかについての記載を入学者選抜の文中に明確に規定していなかったため、大学入学者共通テスト利用選抜における確認方法を含めて、各入試区分におけるアドミッション・ポリシー(1)の確認方法について具体的な記載となるように追記した。

確認方法 入学志願者本人の記載する資料(「大学入学志望理由書」)の活用

「書類審査」における「調査書」については入学志願者から入学者選抜の資料として、在籍する高等学校が高等学校生徒指導要領に基づき作成した調査書の提出を受け、十分に活用するものとしているが、調査書の「7. 指導上参考となる諸事項」を含め、アドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断するための記載はなされていない。

このため「書類審査」において、「調査書」以外に徴求する入学志願者本人の記載する資料(「大学入学志望理由書」)の活用によりアドミッション・ポリシー(1)に掲げる意思や態度を適切に判断するとともに、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定するものとする。

「大学入学志望理由書」には以下の内容を盛り込むものとし、入学者選抜においてどのように活用するのかについて募集要項に明記する。

- ① アドミッション・ポリシー(1)に掲げる「子どもを愛し、子どもの最善の利益を守り、高い倫理観・使命感・責任感を持って子どもの保育を行いたいと考える」意思やその理由などを記述式にて記載する。
- ② 高等学校までの学習や活動の履歴が把握できるようにするため、学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育活動を実施する学校における学習活動等)を記載する。
- ③ 入学希望理由や入学後に学びたい内容・計画、大学卒業後を見据えた目標等を記載する。

各入試区分におけるアドミッション・ポリシー（1）の確認方法についての具体的説明

【一般選抜】

入学者の選抜は、学力検査（国語・外国語（英語）、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）及び面接試験により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【共通テスト利用型選抜】

入学者の選抜は、学力検査（大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【学校推薦型選抜】

入学者の選抜は、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力を適切に評価するために、小論文や高等学校の学修成績の状況など書類審査（調査書、出身高等学校長の推薦書、大学入学志望理由書等）及び面接試験により入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【総合型選抜】

入学者の選抜は、詳細な書類審査（調査書、自己申告書、大学入学志望理由書）と時間をかけた丁寧な面接や模擬授業等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する。幼児教育・保育者の養成を趣旨とする学部であるため当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を重視する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【社会人選抜】

入学者の選抜は、2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【外国人留学生選抜】

入学者の選抜は、作文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適正や意欲、基礎学力等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

【編入学選抜】

入学者の選抜は、小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略)</p> <p>(4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>オ 入学者の受け入れ方針 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、調査書、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験、<u>調査書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>、<u>推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜では、<u>体験授業</u>、<u>調査書</u>、<u>自己申告書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接等、において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜（自己推薦型）では、<u>体験授業</u>、<u>調査書</u>、<u>自己推薦書</u>、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。 ・編入学選抜では、小論文、<u>大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断 	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (略)</p> <p>(4) 教育の理念と学修成果の検証 (略)</p> <p>エ 入学者の受け入れ方針 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、調査書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験及び調査書において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書</u>、<u>推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜では、<u>体験授業</u>、<u>面接</u>、<u>自己申告書</u>等及び調査書において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。 ・総合型選抜（自己推薦型）では、<u>体験授業</u>、<u>面接</u>、<u>自己推薦書</u>及び調査書等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。 ・編入学選抜では、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性

<p>力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、<u>小論文、大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・外国人留学生選抜では、<u>作文、大学入学志望理由書</u>及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 <p><u>カ</u> 学修成果の検証</p>	<p>を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・外国人留学生選抜では、作文及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 <p><u>オ</u> 学修成果の検証</p>
<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>ア 入学者受け入の方針 (アドミッション・ポリシー) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、<u>調査書、大学入学志望理由書</u>及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験、<u>調査書、大学入学志望理由書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書、大学入学志望理由書、推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 	<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>ア 入学者受け入の方針 (アドミッション・ポリシー) (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、<u>調査書及び面接</u>において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 なお、英語について、4 技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。 ・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の筆記試験及び<u>調査書</u>において、知識・技能、思考力・判断力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。 ・学校推薦型選抜では、小論文、<u>調査書、推薦書</u>及び面接において適性や意欲、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

- ・総合型選抜では、体験授業、調査書、自己申告書、大学入学志望理由書及び面接等、において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、体験授業、調査書、自己推薦書、大学入学志望理由書及び面接等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・編入学選抜では、小論文、大学入学志望理由書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文、大学入学志望理由書及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・外国人留学生選抜では、作文、大学入学志望理由書及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

イ 募集人員・選抜方法等

入学者選抜においては能力・意欲・適性等の判定にあたり、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する三つの要素を適切に把握するため、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで意思や態度を適切に判断するための確認方法及びどのような基準・方法によって適切に評価・判定するか入試区分ごとの評価・判定の基準を示し、募集要項に記す。

各入試区分、選抜概要及び募集人員は次のと

- ・総合型選抜では、体験授業、面接、自己申告書等及び調査書において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・総合型選抜（自己推薦型）では、体験授業、面接、自己推薦書及び調査書等において適性や学習に対する意欲・目的意識等を、また、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等多面的・総合的に評価し選抜します。
- ・編入学選抜では、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する者を対象に、小論文及び面接において、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に、社会人としての経験や実績に基づき主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。
- ・外国人留学生選抜では、作文及び面接において、基礎学力や基本的な日本語能力及び日本で学習する意欲や適性、主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度等を総合的に評価し選抜します。

イ 募集人員・選抜方法等

(新設)

各入試区分、選抜概要及び募集人員は次のと

おりとしている。			おりとしている。		
入試区分	選抜概要	募集人員	入試区分	選抜概要	募集人員
一般選抜	<u>入学者の選抜は、学力検査（国語・外国語（英語）、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）及び面接試験により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めものとする。</u>	10名	一般選抜	学力試験（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書）面接試験（面接）により入学志願者の学習能力を多面的・総合的に評価・判定する	10名
大学入学共通テスト利用選抜	<u>入学者の選抜は、学力検査（大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））、書類審査（調査書、大学入学志望理由書）により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めものとする。</u>	15名	大学入学共通テスト利用選抜	大学入学共通テスト（国語・外国語（英語））及び書類審査（により入学志願者の学習能力を多面的・総合的に評価・判定する	15名
学校推薦型選抜	<u>入学者の選抜は、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力を適切に評価するために、小論文や高等学校の学修成績の状況など書類審査（調査書、出身高等学校長の推薦書、大学入学志望理由書等）及び面接試験により入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判断する。なお、大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めものとする。</u>	30名	学校推薦型選抜	小論文や出身高等学校長の推薦書等の書類審査及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する	30名

総合型選抜	<p>入学者の選抜は、<u>詳細な書類審査（調査書、自己申告書、大学入学志望理由書）と時間をかけた丁寧な面接や模擬授業等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する。幼児教育・保育者の養成を趣旨とする学部であるため当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を重視する。</u></p> <p>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	15名	総合型選抜	<p>自己申告書・調査書等の書類審査、体験授業受講感想文及び面接審査により入学志願者の能力・適性や学習に対する態度、目的意識等を総合的に評価・判定する。</p>	15名
社会人選抜	<p>入学者の選抜は、<u>2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的に評価・判定する。</u>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	若干名	社会人選抜	<p>2年以上の社会人経験を有する者を対象に小論文や面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	若干名
外国人留学生選抜	<p>入学者の選抜は、<u>作文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適正や意欲、基礎学力等を多面的・総合的に評価・判定する。</u>なお、<u>大学入学志望理由書には入学志願者の意思や態度を適切に判断できるための記述を求めるものとする。</u></p>	若干名	外国人留学生選抜	<p>作文や面接審査により入学希望者の基礎学力や意欲を多面的・総合的に評価・判定する</p>	若干名
編入学選抜（令	<p>入学者の選抜は、<u>小論文や大学入学志望理由書及び面接審査により入学志願者の適性や意欲、基礎学力を多面的・総合的</u></p>	5名	編入学選抜（令	<p>小論文や面接審査により入学志願者の適性や意欲、学習能力を多面的・総合的に評価・判定する</p>	5名

和7 年度 よ り)	に評価・判定する。なお、大学 入学志望理由書には入学志願 者の意思や態度を適切に判断 できるための記述を求めるも のとする。		和7 年度 よ り)		
---------------------	--	--	---------------------	--	--

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

4. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして申請段階における業者アンケート調査に基づいて「受験したいと思う」と回答した者のうち、本学に「入学したい」と回答した者の数を示しているが、回答者の高校卒業後の希望進路や興味のある学問についてクロス集計がなされておらず、回答者の入学見込みについて適切に分析したものとは判断できない。また、当該調査の対象者を踏まえると、複数の大学等を併願することが一般的に想定されるが、調査票の選択肢は併願先を踏まえた入学意向を確認できるものとなっておらず、定員充足の根拠となる客観的なデータが適切に示されているとは判断できない。回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえて適切にクロス集計し、分析されたデータを改めて示すなど、定員充足の根拠となる客観的なデータを基に改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

入学定員充足の見通しがあることについて、客観的根拠となるデータから検証することを目的として、「企画・計画段階でのアンケート調査（令和元年度）」及び「申請段階の高校生アンケート調査（令和3年度）」と、2回のアンケート調査を実施している。しかし、申請に際しては回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計等を明確に示していなかったため、あらためて集計したデータを示し、定員充足の根拠を追記する。

(ア) 高校生アンケート調査に関し、回答者の進路希望や興味ある学問分野、併願状況等を踏まえ、適切に分析を行うためクロス集計を行い、以下の項目をすべて満たした入学意向者数を検証した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問1（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者

問2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表1（私立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質 問 事 項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調 査 数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者	1,147	84	1,231
2	且つ（興味関心がある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	307	28	335
3	且つ（本学への興味）で「とても興味を感じる」等を選択した者（回答①及	152	26	178

	び②			
4	且つ（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者	76	22	98
5	且つ（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者	70	20	90

上記集計の結果、回答者（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）の内、問 1 から問 5 までの全てを満たすものが 90 人となり、入学定員数（70 人）を上回っていることから、定員を充足できる見通しがある。

また、上記質問の問 1 から問 4（進路希望で「私立大学に進学」を希望し、かつ、興味関心のある分野で「保育・教育学・教員養成」を選択し、かつ、本学への興味で「とても魅力を感じる」等を選択し、かつ、受験意向で「受験したいと思う」を選択した者）までを選択した者で、問 5 で「入学したいと思わない」ものを選択した者（8 人）を、本学以外の私立大学の保育者養成校への入学を希望する者（併願意向有）と想定した場合（併願意向を持つ回答者を除いた状況）において定員を充足できる見通しがある。

(イ) 進路希望で「国公立大学に進学」を希望している者（本学は併願校）の入学意向者についても、私立大学に進学を希望するとした集計と同様に、以下の項目をすべて満たした入学希望者をクロス集計した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問 1（進路希望）で「国公立大学に進学」を希望している者

問 2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 2（国公立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質 問 事 項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調 査 数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「 <u>国公立大学</u> に進学」を希望している者	1,443	33	1,476
2	且つ（興味関心がある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	377	5	382
3	且つ（本学への興味）で「とても興味を感じる」等を選択した者（回答①及び②）	180	4	184

4	且つ（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者	64	3	67
5	且つ（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者	58	3	61

上記集計の結果、回答者（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）の内 61 人が国公立大学に進学を希望しつつ本学への入学意向も示している。また、ことから、これらの回答者は国公立大学に進学を希望する回答者においても併願校として本学を受験し、一定の数の入学者が発生することが想定されることから入学定員 70 人を充足するものとする。

上記調査時の熊本県内の高校 2 年女子生徒数は 7,067 人（令和 3 年度 文部科学省学校基本調査）であり、高校生アンケート調査の対象数（4,004 人）が県内全体の一部（約 6 割）であることを考慮した場合、高校生アンケートの対象者外から本学への入学意向を示す者が相当数発生するものと思料する。

【資料 4-1 調査対象高校一覧】

【資料 4-2 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 4-3 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

（ウ）企画・計画段階（令和元年度）において、県内高校 1・2 年生の女性を対象としたアンケート調査を実施し、集計を行っている。

高校 1 年生を対象としたアンケートにおいて、「尚綱大学新学部に進学したい」者が 51 人（4.0%）であった。調査対象カバー率が 17.1%（調査回答数 1,280 人／熊本県内の高校 1 年生の女性生徒数 7,506 人）であることを勘案した場合、「尚綱大学新学部に進学したい」とするものが入学定員を充足すると推計できる。

【資料 4-4 企画段階アンケート（1 年生）】

高校 2 年生を対象としたアンケートにおいて、「尚綱大学新学部に進学したい」者が 46 人（3.9%）であった。調査対象カバー率が 15.8%（調査回答数 1,187 人／県内高校の高校 2 年生の女性生徒数 7,488 人）であるところを勘案した場合、「尚綱大学新学部に進学したい」とするものが入学定員を充足すると推計できる。

【資料 4-5 企画段階アンケート（2 年生）】

定員充足の根拠として実施した調査時期及び調査方法の異なる 2 回のアンケート調査（「企画・計画段階アンケート調査（令和元年度）」と「高校生アンケート調査」（申請段階 令和 3 年度））結果及びアンケート回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計の結果、学部においては入学定員数（70 人）を充足できる見通しはあるものとする。

（新旧対照表）「学生の確保の見通し等を記載した書類」（6-8 ページ）

新	旧
---	---

(3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(略)

③申請段階における業者アンケート調査の結果

(略)

【資料 2-7 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 2-8 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

【資料 2-9 調査対象高校一覧】

（ア）高校生アンケート調査に関し、回答者の進路希望や興味ある学問分野、併願状況等を踏まえ、適切に分析を行うためクロス集計を行い、以下の項目をすべて満たした入学意向者数を検証した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問 1（進路希望）で「私立大学に進学」を希望している者

問 2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 1（私立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質問事項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調査数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「私立大学に進学」を希望	1,147	84	1,231

(3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(略)

③申請段階における業者アンケート調査の結果

(略)

【資料 2-7 設置に関するニーズ調査リーフレット】

【資料 2-8 設置に関するニーズ調査報告書（高校生）】

学生の確保を図ることができる見通しがあることについて、本学独自による企画・計画段階での調査アンケート及び専門の調査機関による申請準備段階でのアンケート調査（受験意向・入学意向調査）を行った結果として、学生確保においては十分な見通しがあるものと考えられる。

	している者			
2	且つ(興味 関心がある 分野)で「保 育・教育学・ 教員養成」 を選択した 者	307	28	335
3	且つ(本学 への興味) で「とても 興味を感じ る」等を選 択した者 (回答①及 び②)	152	26	178
4	且つ(受験 意向)で「受 験したいと 思う」を選 択した者	76	22	98
5	且つ(入学 意向)で「入 学したいと 思う」を選 択した者	70	20	90

上記集計の結果、回答者(一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人)の内、問 1 から問 5 までの全てを満たすものが 90 人となり、入学定員数(70 人)を上回っていることから、定員を充足できる見通しがある。

また、上記質問の問 1 から問 4(進路希望で「私立大学に進学」を希望し、かつ、興味関心のある分野で「保育・教育学・教員養成」を選択し、かつ、本学への興味で「とても魅力を感じる」等を選択し、かつ、受験意向で「受験したいと思う」を選択した者)までを選択した者で、問 5 で「入学したいと思わない」ものを選択した者(8 人)を、本学以外の私立大学の保育者養成校への入学を希望する者(併願意向有)と想定した場合(併願意向を持つ回答者を除いた状況)において定員を充足できる見通しがある。

(イ) 進路希望で「国公立大学に進学」を希望し

ている者（本学は併願校）の入学意向者についても、私立大学に進学を希望するとした集計と同様に、以下の項目をすべて満たした入学希望者をクロス集計した。

回答者数 4,004 人（一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人）

問 1（進路希望）で「国公立大学に進学」を希望している者

問 2（興味・関心のある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者

問 3（本学への興味）で「とても魅力を感じる」等を選択した者

問 4（受験意向）で「受験したいと思う」を選択した者、

問 5（入学意向）で「入学したいと思う」を選択した者

クロス集計表 2（国公立大学に進学を希望している者の内の入学意向者数）

	質問事項	高校生アンケート調査（併設校除く）	高校生アンケート調査（併設校のみ）	合計数
問	調査数	3,822	182	4,004
1	（進路希望）で「国公立大学に進学」を希望している者	1,443	33	1,476
2	且つ（興味関心がある分野）で「保育・教育学・教員養成」を選択した者	377	5	382
3	且つ（本学への興味）で「とても興味を感じる」等を選択した者（回答①及	180	4	184

	び②			
4	且つ(受験意向)で「受験したいと思う」を選 択した者	64	3	67
5	且つ(入学意向)で「入学したいと思う」を選 択した者	58	3	61

上記集計の結果、回答者(一般高校生 3,822 人、併設校生 182 人)の内 61 人が国公立大学に進学を希望しつつ本学への入学意向も示している。また、ことから、これらの回答者は国公立大学に進学を希望する回答者においても併願校として本学を受験し、一定の数の入学者が発生することが想定されることから入学定員 70 人を充足するものとする。

上記調査時の熊本県内の高校 2 年女子生徒数は 7,067 人(令和 3 年度 文部科学省学校基本調査)であり、高校生アンケート調査の対象数(4,004 人)が県内全体の一部(約 6 割)であることを考慮した場合、高校生アンケートの対象者外から本学への入学意向を示す者が相当数発生するものと思料する。

定員充足の根拠として実施した調査時期及び調査方法の異なる 2 回のアンケート調査(「企画・計画段階アンケート調査(令和元年度)」と「高校生アンケート調査(申請段階 令和 3 年度)」)結果及びアンケート回答者の進路希望や興味のある学問分野、併願状況を踏まえたクロス集計の結果、学部においては入学定員数(70 人)を充足できる見通しはあるものとする。